

平成 25 年 8 月 22 日
独立行政法人 防災科学技術研究所
国立大学法人神戸大学都市安全研究センター

防災科学技術研究所兵庫耐震工学研究センターと 神戸大学都市安全研究センターが連携協定を締結

独立行政法人防災科学技術研究所兵庫耐震工学研究センター（HEERC）と国立大学法人神戸大学自然科学系先端融合研究環都市安全研究センター（RCUSS）は平成 25 年 7 月 1 日、相互の連携を強化し、地域の安全と安心に資する地域密着型の防災・減災研究拠点形成に参画するために連携協定を締結しました。

協定は相互の包括的かつ持続的な連携と協力により、地震や津波などの災害に対する防災・減災研究を推進し、地域密着型の防災・減災連携拠点形成を通して地域の安全と安心に貢献し、地域社会の形成、発展に寄与することを目的としています。

学術、地域の行政そして地域の人々と三位一体となって被災予測の精緻化とハザードマップの高度化、耐災害能力の向上、防災・減災施策の具体化、防災教育の普及などを図り、懸念される南海トラフ地震や津波などの自然災害への地域の備えに積極的に貢献していきます。

1. 内容：別紙資料による。
2. 本件配布先：文部科学記者会，科学記者会，筑波研究学園都市記者会
兵庫県政記者クラブ、三木市政記者クラブ
兵庫県教育記者クラブ，大阪科学・大学記者クラブ

【担当】

独立行政法人 防災科学技術研究所

兵庫耐震工学研究センター

電話 0784-85-8211

E-mail : e-def@bosai.go.jp

神戸大学都市安全研究センター

電話 078(803)6437

E-mail : rcuss@kobe-u.ac.jp

防災科学技術研究所・兵庫耐震工学研究センター（HEERC）
神戸大学・自然科学系先端融合研究環・都市安全研究センター（RCUSS）

独立行政法人防災科学技術研究所と国立大学法人神戸大学は平成25年7月1日、研究所・大学双方の相互の連携を強化し、地域の安全と安心に資する地域密着型の防災・減災研究拠点形成に参画するため、兵庫耐震工学研究センター（HEERC）と自然科学系先端融合研究環都市安全研究センター（RCUSS）で連携協定を締結しました。

協定は相互の包括的かつ持続的な連携と協力により、地震や津波などの災害に対する防災・減災研究を推進し、地域密着型の防災・減災連携拠点形成を通して地域の安全と安心に貢献し、地域社会の形成、発展に寄与することを目的としています。具体的には①共同研究、人材交流、学術交流等の研究協力②地域振興③人材育成——などで協力して神戸・兵庫地域の防災・減災に貢献しようとするものです。

この締結によって、世界有数の実大振動台実験設備（E-Defense）を有する防災科研と神戸大学は、既に神戸大学と連携協定を結んでいる、地域の自治体である神戸市、兵庫県、世界有数の京コンピュータを有する理化学研究所・計算科学研究機構（RIKEN AICS）の総合防災・減災研究ユニット、さらにはHPC（High Performance Computing）戦略プログラムの海洋研究開発機構（JAMSTEC）と結ばれ、地域密着型、地域貢献型の防災・減災研究拠点を形成することになりました。今後はこの拠点を軸に、学術、地域の行政そして地域の人々と三位一体となって被災予測の精緻化とハザードマップの高度化、耐災害能力の向上、防災・減災施策の具体化、防災教育の普及などを図り、懸念される南海トラフ地震や津波などの自然災害への地域の備えに積極的に貢献していきます。

地域に立脚した揺るぎない関係からの連携アプローチは、研究計画立案、研究推進、成果展開に於いて大きな利点となります。たとえば研究の具体的な展開先の開拓や、現場に役立つ研究開発の課題調査、地域機関との連携による計画の立案、研究課題への応募など、双方にとって具体的な研究の発展につながる連携協定です。

懸念される南海トラフ震災は超広域であって、阪神淡路震災時のように近隣の大阪や姫路などからの救助や救援は期待できず、ある一定期間を独力で「生き残る」ことが求められます。さらに、地震や津波に起因する災害連鎖、すなわちエネルギー供給や流通、通信の遮断、汚染、疫病、人心不安などの複合性も無視できません。このような災害に備えるには、兵庫県で形成しようとしている学術・行政・地域の人々との三位一体型の地域貢献型防災・減災連携拠点を全国各地に展開し、それらが相互補完できるようにネットワーク化を成し遂げねばなりません。防災科研兵庫耐震工学研究センター（HEERC）と神戸大学都市安全研究センター（RCUSS）は、この地域貢献型防災・減災連携拠点の神戸モデルの創生に協力します。

地域貢献型防災・減災連携拠点形成

